

注3

大学番号：国047

共同設置

[平成25年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

名古屋工業大学大学院工学研究科共同ナノメディシン科学専攻
名古屋市立大学大学院薬学研究科共同ナノメディシン科学専攻

注2

【共同設置】設置に係る設置計画履行状況報告書

名古屋工業大学：国立大学法人名古屋工業大学
名古屋市立大学：公立大学法人名古屋市立大学

平成25年5月1日現在

名古屋工業大学：作成担当者	
担当部局（課）名	企画広報課
職名・氏名	企画係長 ヤマナカ トシオ 山中 利夫
電話番号	052-735-5005
（夜間）	052-735-5005
F A X	052-735-5009
e-mail	kcyosa@adm.nitech.ac.jp
名古屋市立大学：作成担当者	
担当部局（課）名	薬学部事務室
職名・氏名	事務長 ミウラ シンスケ 三浦 伸介
電話番号	052-836-3401
（夜間）	052-836-3402
F A X	052-834-9309
e-mail	miura-shinsuke@sec.nagoya-cu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は、設置時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成25年3月15日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要	1
2	授業科目の概要	6
3	施設・設備の整理状況	9
4	既設大学等の状況	1 1
5	教員組織の状況	1 5
6	留意事項に対する履行状況等	2 0
7	その他全般的事項	2 1

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者, 大学名

国立大学法人名古屋工業大学 : 名古屋工業大学大学院

公立大学法人名古屋市立大学 : 名古屋市立大学大学院

(2) 大学の位置

(名古屋工業大学)

〒466-8555 : 愛知県名古屋市昭和区御器所町

(名古屋市立大学)

〒467-8603 : 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地

(〒467-8601 : 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

- (注) ・ 対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・ 対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(3) 管理運営組織

大学名	職名	設置時	変更状況	備考
名古屋工業大学	学長	(タカハシ ミノル) 高橋 実 (平成22年4月)		
	研究科長			
	専攻長	(ヤマシタ ケイジ) 山下 啓司 (平成25年4月)		
名古屋市立大学	理事長	(トガリ ハジメ) 戸 苺 創 (平成22年4月)		
	学長	(トガリ ハジメ) 戸 苺 創 (平成22年4月)		
	研究科長	(ミヤタ ナオキ) 宮田 直樹 (平成23年4月)	(ヒラシマ ナオヒデ) 平嶋 尚英 (平成25年4月)	H25.3.31 任期満了 H25.4.1 就任(25)
	専攻長			

- (注) ・ 「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成23年度に報告済の内容 → (23)

平成25年度に報告する内容 → (25)

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・ 大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の博士後期課程の専攻の場合(平成25年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(4) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
名古屋工業大学大学院工学研究科 共同ナノメディシン科学専攻 博士(ナノメディシン科学)	3 年	3 人	9 人	基礎となる学部等 工学部
名古屋市立大学大学院薬学研究科 共同ナノメディシン科学専攻 博士(ナノメディシン科学)	3	4	12	基礎となる学部等 薬学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(4) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

大学名	報告年度 区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員 超過率	備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
名古屋 工業大学	A 入学定員	人 3 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.00 倍	
	志願者数	(-) [1] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	受験者数	(-) [1] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	合格者数	(-) [1] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	B 入学者数	(-) [1] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	入学定員超過率 B/A	1.00							
名古屋 市立大学	A 入学定員	人 4 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	0.75 倍	
	志願者数	(2) [-] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	受験者数	(2) [-] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	合格者数	(2) [-] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	B 入学者数	(2) [-] 3	(-) [-] -	() []	() []	() []	() []		
	入学定員超過率 B/A	0.75							

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(4) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

大学名	報告年度 学 年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
名古屋 工業大学	1年次	[1] 3	[-] -	[]	[]	[]	[]	
	2年次	/		[]	[]	[]	[]	
	3年次	/		/		[]	[]	
	計	[1] 3		[]	[]	[]	[]	
名古屋 市立大学	1年次	[-] 3	[-] -	[]	[]	[]	[]	
	2年次	/		[]	[]	[]	[]	
	3年次	/		/		[]	[]	
	計	[-] 3		[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(4) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

大学名	区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
				退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
名古屋 工業 大学	平成25年度 入学者	3人	0人	平成25年度	0人	0人		0%
				平成26年度	-人	-人		
				平成27年度	-人	-人		
	平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		#DIV/0!%
				平成27年度	人	人		
	平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		#DIV/0!%
	合計	3人	0人					0%
名古屋 市立 大学	平成25年度 入学者	3人	0人	平成25年度	0人	0人		0%
				平成26年度	-人	-人		
				平成27年度	-人	-人		
	平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		#DIV/0!%
				平成27年度	人	人		
	平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		#DIV/0!%
	合計	3人	0人					0%

(注)・数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<名古屋工業大学大学院工学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

<名古屋市立大学大学院薬学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	構成 大学	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻 基軸 科目	機能医薬創成学概論 1	1前	名古屋市立大学		1		1						
	機能医薬創成学概論 2	1前	名古屋工業大学		1		1	1					オムニバス
	薬物送達・動態科学概論 1	1前	名古屋市立大学		1		1						
	薬物送達・動態科学概論 2	1前	名古屋工業大学		1		2	1					オムニバス
	医薬支援ナノ工学概論 1	1前	名古屋市立大学		1		1						
	医薬支援ナノ工学概論 2	1前	名古屋工業大学		1		1	2					オムニバス
	薬工連携特別演習	1後	名古屋市立大学 名古屋工業大学		2		7	6	5	2	1	2	
機能 医薬 創成 学 部門	次世代医薬品開発学(1・2)	2後	名古屋市立大学		2		1						
	高精度有機合成化学	2前	名古屋工業大学		2		1						
	機能医薬創成学特別研究 1	2前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	2	1	0	1		平成24年11月専任教員の昇任に伴う変更
	機能医薬創成学特別研究 2	2後	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	2	1	0	1		
	機能医薬創成学特別研究 3	3前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	2	1	0	1		
薬物 送達・ 動態 科学 部門	製剤設計・薬物送達制御学(1・2)	2後	名古屋市立大学		2		1						
	生体関連物質設計学	2前	名古屋工業大学		2		1						
	薬物送達・動態科学特別研究 1	2前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			3	1	1				
	薬物送達・動態科学特別研究 2	2後	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			3	1	1				
	薬物送達・動態科学特別研究 3	3前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			3	1	1				
医薬 支援 ナノ 工学 部門	薬物送達・動態科学特別研究 4	3後	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			3	1	1				
	医薬支援ソフトマター物性論(1・2)	2後	名古屋市立大学		2		1						
	マイクロ・ナノバイオメカニクス	2前	名古屋工業大学		2		1						
	医薬支援ナノ工学特別研究 1	2前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	3	1	0	1		平成24年11月専任教員の昇任に伴う変更
	医薬支援ナノ工学特別研究 2	2後	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	3	1	0	1		
部門 共通 科目	医薬支援ナノ工学特別研究 3	3前	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	3	1	0	1		
	医薬支援ナノ工学特別研究 4	3後	名古屋市立大学 名古屋工業大学	2			2	3	1	0	1		
	センサーデバイス開発学特論(1・2)	2後	名古屋市立大学		2							兼2	オムニバス
	薬物動態・超分子解析学特論(1・2)	1後	名古屋市立大学		2							兼2	オムニバス
	遺伝情報発現制御学特論(1・2)	2前	名古屋市立大学		2							兼2	オムニバス
	先端機能薬理学特論(1・2)	1前	名古屋市立大学		2							兼2	オムニバス
	触媒ナノテクノロジー特論	1前	名古屋工業大学		2			1					
	メディカルナノテクノロジー特論	1前	名古屋工業大学		2			1					
	ナノ薬工学材料評価学特論	2前	名古屋工業大学		2							兼1	
	先進薬科学特論	2後	名古屋工業大学		2		1						
	生命倫理特論	1前	名古屋市立大学	1								兼2	オムニバス
	医薬品産業特論	1前	名古屋市立大学	1								兼2	オムニバス
	現代知的財産権特論	1後	名古屋工業大学	2								兼2	オムニバス
テクノロジーインターンシップ	1前・後	名古屋市立大学 名古屋工業大学		2		7	6	5	2	1	2		集中 平成24年11月専任教員の昇任に伴う変更
グローバルプレゼンテーション	1前・後	名古屋市立大学 名古屋工業大学		2		7	6	5	2	1	2		集中 平成24年11月専任教員の昇任に伴う変更

- (注) ・ 設置計画書様式第2号(その2の2)又は「教育課程等の概要」に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成24年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」については、設置時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、記入してください。

(2) 授業科目数

大学名	届出時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
名古屋工業大学	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
	14	12	0	26	14	12	0	26	
					[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	
名古屋市立大学	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
	15	12	0	27	15	12	0	27	
					[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
名古屋工業大学	1	該当なし					
	2						
	3						
名古屋市立大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
名古屋工業大学	1	該当なし					
	2						
	3						
名古屋市立大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

名古屋工業大学: 該当なし

名古屋市立大学: 該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(名古屋工業大学)

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

(名古屋市立大学)

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(名古屋工業大学)

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校舎敷地	159,406㎡	㎡	㎡	159,406㎡						
	運動場用地	44,982㎡	㎡	㎡	44,982㎡						
	小 計	204,388㎡	㎡	㎡	204,388㎡						
	そ の 他	13,208㎡	㎡	㎡	13,208㎡						
	合 計	217,596㎡	㎡	㎡	217,596㎡						
(2) 校 舎	専 用	123,052㎡ 123,225㎡ (123,052㎡) -(123,225㎡)	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	建物改修により管理施設が減少したため(25)					
			(㎡)	(㎡)	(123,052㎡) -(123,225㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	57 室 64 室	演 習 室	152 室 141 室	実験実習室	690 室 705 室	情報処理学習施設	7 室 (補助職員 4人)	語学学習施設	6 室 5 室 (補助職員 2人)	大学全体 建物解体により部屋の 移転・組換えを行った ため(25)
	新設学部等の名称		室 数		平成25年4月 専任教員1名を新規採用のため(25)						
(4) 専任教員研究室		共同ナノメディシン科学専攻		49 45 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書(冊) 469,414 466,030 [210,848 209,426] 学術雑誌(種) 14,866 9,131 [12,020 6,198] 電子ジャーナル 9,274 3,366 [8,719 2,876] 学生の修学環境を改善 するため(25)			
	工学研究科 共同ナノメディ シン科学専攻	340,248 [168,045] 336,694 [166,918] (340,248 [168,045]) (336,694 [166,918])	9,165 [7,245] 7,169 [5,207] (9,165 [7,245]) (7,169 [5,207])	5,019 [4,579] 3,031 [2,541] (5,019 [4,579]) (3,031 [2,541])	569 515 (569) (515)	(0)	(0)	0			
	計	340,248 [168,045] 336,694 [166,918] (340,248 [168,045]) (336,694 [166,918])	9,165 [7,245] 7,169 [5,207] (9,165 [7,245]) (7,169 [5,207])	5,019 [4,579] 3,031 [2,541] (5,019 [4,579]) (3,031 [2,541])	569 515 (569) (515)	(0)	(0)	0			
(6) 図 書 館	面 積	5,595㎡		閱 覧 座 席 数	470 502	収 納 可 能 冊 数	526,361	大学全体 建物解体による教室の 仮移転先となったため (25)			
	面 積	2,479㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による			
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	- 千円	- 千円	図書購入費	- 千円	- 千円				
		共同研究費等	- 千円	- 千円	設備購入費	- 千円	- 千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要											

(名古屋市立大学)

区 分		内 容				備 考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体					
	校舎敷地	182,995.16 m ²	m ²	m ²	182,995.16 m ²						
	運動場用地	19,071.00 m ²	m ²	m ²	19,071.00 m ²						
	小 計	202,066.16 m ²	m ²	m ²	202,066.16 m ²						
	そ の 他	0 m ²	m ²	m ²	0 m ²						
	合 計	202,066.16 m ²	m ²	m ²	202,066.16 m ²						
(2) 校舎	専 用	203,124.81 m ² 207,949.98 m ² (203,124.81 m ²) -(207,949.98 m ²)	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 大学整備計画の進展(25)					
			(m ²)	(m ²)	203,124.81 m ² 207,949.98 m ² (203,124.81 m ²) -(207,949.98 m ²)						
(3) 教室等	講義室	79 室	演習室	113 室	実験実習室	55 室	情報処理学習施設	13 室 (補助職員 0人)	語学学習施設	0 室 (補助職員 0人)	
	専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		共同ナノメディン科学専攻		14 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体			
		[うち外国書]	[うち外国書]								
	薬学研究科 共同ナノメディン科学専攻 (博士後期課程)	64,971 [31,734] 64,598 [35,653] (64,971 [31,734]) (64,598 [35,653])	1,291 [646] 1,317 [646] (1,291 [646]) (1,317 [646])	7,219 [6,095] 6,433 [5,258] (7,219 [6,095]) (6,433 [5,258])	88 (88)	642 (642)	0 (0)	電子ジャーナルについては田辺キャンパスで利用可能タイトル数			
	計	64,971 [31,734] 64,598 [35,653] (64,971 [31,734]) (64,598 [35,653])	1,291 [646] 1,317 [646] (1,291 [646]) (1,317 [646])	7,219 [6,095] 6,433 [5,258] (7,219 [6,095]) (6,433 [5,258])	88 (88)	642 (642)	0 (0)	整備計画の進展(25)			
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 整備計画の進展(25)				
	8,113.36 m ² 8,122.36 m ²		530 席 518 席		774,900冊 773,333冊						
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 大学整備計画の進展(25)				
	2,148.0 m ² 3,267.9 m ²		野球グラウンド、テニスコート								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書・設備および経費(共同研究費除く)は薬学のもの。その他は全学共通		
		教員1人当り研究費等	544千円	544千円	図書購入費	9,616千円	9,727千円 9,631千円	9,749千円 9,742千円			
	共同研究費等	30,000千円	30,000千円	設備購入費	4,705千円	4,705千円	4,705千円	学生1人当り納付金の第1年次上段は名古屋市立、下段はその他			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		767.8千円 867.8千円	535.8千円	535.8千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金(名古屋市費)									

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成25年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(25)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 構成大学毎に記入してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収容量	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
【工学部】	年	人	年次人	人		倍			
(第一部)						1.05			
生命・物質工学科	4	155		620	学士(工学) 学士(学術)	1.06	平成16	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
環境材料工学科	4	95		380	学士(工学) 学士(学術)	1.04	平成16		
機械工学科	4	185		740	学士(工学) 学士(学術)	1.05	平成16		
電気電子工学科	4	140		560	学士(工学) 学士(学術)	1.05	平成16		
情報工学科	4	165		660	学士(工学) 学士(学術)	1.02	平成16		
建築・デザイン工学科	4	80		320	学士(工学) 学士(学術)	1.05	平成16		
都市社会工学科	4	90		360	学士(工学) 学士(学術)	1.06	平成16		
(共通)			3年次 10	20					
(第二部)						1.12			
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.12	平成16		
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.12	平成16		
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.12	平成16		
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.12	平成16		
【工学研究科】									
(博士前期課程)						1.10			
物質工学専攻	2	100	-	200	修士(工学) 修士(学術)	1.12	平成15	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
機能工学専攻	2	100	-	200	修士(工学) 修士(学術)	1.10	平成15		
情報工学専攻	2	120	-	240	修士(工学) 修士(学術)	1.13	平成15		
社会工学専攻	2	75	-	150	修士(工学) 修士(学術)	1.10	平成15		
産業戦略工学専攻	2	33	-	50	修士(工学) 修士(学術) 修士(産業戦略)	1.04	平成15		
未来材料創成工学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.05	平成20		
創成シミュレーション工学専攻	2	80	-	160	修士(工学) 修士(学術)	1.14	平成20		

(博士後期課程)						1.49			
物質工学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.26	平成15	愛知県名古屋 市昭和区御器所町	
機能工学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.40	平成15		
情報工学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	2.40	平成15		
社会工学専攻	3	4	-	12	博士(工学) 博士(学術)	2.25	平成15		
未来材料創成工学専攻	3	12	-	36	博士(工学) 博士(学術)	1.22	平成20		
創成シミュレーション工学専攻	3	8	-	24	博士(工学) 博士(学術)	1.20	平成20		
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士(ナノメーション科学)	1.00	平成25		
大学の名称	名古屋市立大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
薬学部	年	人	年次 人	人		倍			
薬学科	6	60	-	360	学士(薬学)	1.24 1.22	平成18	愛知県名古屋 市瑞穂区田辺通3 丁目1番地	
生命薬科学科	4	40	-	160	学士(薬科学)	1.36	平成18		
医学部						1.00		愛知県名古屋 市瑞穂区瑞穂町字 川澄1番地	
医学科	6	95	-	552	学士(医学)	1.00	昭和25		
経済学部						1.03			
公共政策学科	4	90	-	360	学士(経済学)	1.03	平成19	愛知県名古屋 市瑞穂区瑞穂町字 山の畑1番地	
マネジメントシステム学科	4	80	-	320	学士(経営学)	1.03	平成19		
会計ファイナンス学科	4	60	-	240	学士(経営学)	1.03	平成19		
人文社会学部			3年次			1.06			平成24年4月 人間科学科 を心理教育 学科に名称 変更 ()内は3年次 編入学定員 超過率
心理教育学科	4	59	10	229	学士(人文社会学)	1.06 (0.90)	平成8	愛知県名古屋 市瑞穂区瑞穂町字 山の畑1番地	
現代社会学科	4	67	10	237	学士(人文社会学)	1.04 (1.00)	平成8		
国際文化学科	4	68	-	233	学士(人文社会学)	1.08	平成8		
芸術工学部						1.04			
情報環境デザイン学科	4	30	-	60	学士(芸術工学)	1.05	平成24	愛知県名古屋 市千種区北千種2 丁目1番10号	
産業イノベーションデザイン学科	4	30	-	60	学士(芸術工学)	1.03	平成24		
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.03	平成17		
看護学部						1.00		愛知県名古屋 市瑞穂区瑞穂町字 川澄1番地	
看護学科	4	82	-	322	学士(看護学)	1.00	平成11		

薬学研究科						1.03		
創薬生命科学専攻 (前期課程)	2	36	-	72	修士(薬科学)	1.00	平成22	愛知県名古屋市 瑞穂区田辺通3 丁目1番地
創薬生命科学専攻 (後期課程)	3	8	-	16	博士(薬科学)	1.00	平成24	
共同ナノメ^{-}イン科学専攻 (後期課程)	3	4	-	4	博士(ナノメ^{-}イン科学)	0.75	平成25	
医療機能薬学専攻 (博士課程)	4	6	-	12	博士(薬学)	1.41	平成24	
医学研究科						0.77		
医科学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(医科学)	0.60	平成20	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 川澄1番地
生体機能・構造医学専攻 (博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	0.85	平成12	
生体情報・機能制御医学 専攻(博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	0.78	平成12	
生体防御・総合医学専攻 (博士課程)	4	18	-	72	博士(医学)	0.79	平成12	
予防・社会医学専攻 (博士課程)	4	4	-	16	博士(医学)	0.62	平成12	
経済学研究科						0.56		
経済学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	0.80	平成20	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 山の畑1番地
経済学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(経済学)	0.26	平成20	
経営学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	0.87	平成20	
経営学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(経済学)	0.40	平成20	
人間文化研究科						0.83		
人間文化専攻 (前期課程)	2	25	-	50	修士(人間文化)	1.08	平成12	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 山の畑1番地
人間文化専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(人間文化)	0.73	平成14	
芸術工学研究科						0.77		
芸術工学専攻 (前期課程)	2	30	-	60	修士(芸術工学)	0.86	平成12	愛知県名古屋市 千種区北千種2 丁目1番10号
芸術工学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(芸術工学)	0.73	平成14	

システム自然科学研究科						0.70		
生体情報専攻 (前期課程)	2	15	-	30	修士(生体情報)	0.73	平成12	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 山の畑1番地
生体情報専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(生体情報)	0.93	平成14	
看護学研究科						0.78		
看護学専攻 (前期課程)	2	24	-	48	修士(看護学)	0.97	平成15	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 川澄1番地
看護学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(看護学)	0.46	平成17	

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)及び大学院(専攻)について、それぞれの学校種ごとに、平成25年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。その際、AC対象学部学科等についても当該様式に記入してください。
(ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科単位で記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 構成大学毎に記入してください。

5 教員組織の状況

<名古屋工業大学工学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

<名古屋市立大学薬学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

(1) 担当教員表

(名古屋工業大学)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	柴田 哲男 (47)	平成25年4月	機能医薬創成学概論2※ 高精密有機合成化学 先進薬科学特論 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 機能医薬創成学特別研究1 機能医薬創成学特別研究2 機能医薬創成学特別研究3 機能医薬創成学特別研究4						
専	教授	田中 俊樹 (62)	平成25年4月	薬物送達・動態科学概論2※ 生体関連物質設計学 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 薬物送達・動態科学特別研究1 薬物送達・動態科学特別研究2 薬物送達・動態科学特別研究3 薬物送達・動態科学特別研究4						
専	教授	山下 啓司 (54)	平成25年4月	薬物送達・動態科学概論2※ 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 薬物送達・動態科学特別研究1 薬物送達・動態科学特別研究2 薬物送達・動態科学特別研究3 薬物送達・動態科学特別研究4						
専	教授	松本 健郎 (52)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学概論2※ マイクロ・ナノバイオメカニクス 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4						
専	准教授	小澤 智宏 (47)	平成25年4月	機能医薬創成学概論2※ 触媒ナノテクノロジー特論 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 機能医薬創成学特別研究1 機能医薬創成学特別研究2 機能医薬創成学特別研究3 機能医薬創成学特別研究4						
専	准教授	出羽 毅久 (48)	平成25年4月	薬物送達・動態科学概論2※ メディカルナノテクノロジー特論 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 薬物送達・動態科学特別研究1 薬物送達・動態科学特別研究2 薬物送達・動態科学特別研究3 薬物送達・動態科学特別研究4						
専	准教授	長山 和亮 (39)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学概論2※ 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4						
専	准教授	出口 真次 (37)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学概論2※ 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション 医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4						

兼任	教授	種村 眞幸 (54)	平成25年4月	ナノ薬工学材料評価学特論						
兼任	教授	濱田 恵美子 (54) (加藤 恵美子)	平成25年4月	現代知的財産権特論※						
兼任	非常勤講師	虎澤 研示 (65)	平成25年4月	現代知的財産権特論※						

(名古屋市立大学)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	林 秀敏 (54)	平成25年4月	機能医薬創成学特別研究1 機能医薬創成学特別研究2 機能医薬創成学特別研究3 機能医薬創成学特別研究4 次世代医薬品開発学(1-2) 機能医薬創成学概論1 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	教授	尾関 哲也 (46)	平成25年4月	薬物送達・動態科学特別研究1 薬物送達・動態科学特別研究2 薬物送達・動態科学特別研究3 薬物送達・動態科学特別研究4 製剤設計・薬物送達制御学(1-2) 薬物送達・動態科学概論1 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	教授	山中 淳平 (52)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4 医薬支援ソフトウェア物性論(1-2) 医薬支援ナノ工学概論1 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	准教授	奥蘭 透 (47)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	講師	井上 靖道 (36)	平成25年4月	機能医薬創成学特別研究1 機能医薬創成学特別研究2 機能医薬創成学特別研究3 機能医薬創成学特別研究4 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション		准教授				平成24年11月 昇任
専	講師	田上 辰秋 (35)	平成25年4月	薬物送達・動態科学特別研究1 薬物送達・動態科学特別研究2 薬物送達・動態科学特別研究3 薬物送達・動態科学特別研究4 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	助教	伊藤 友香 (33)	平成25年4月	機能医薬創成学特別研究1 機能医薬創成学特別研究2 機能医薬創成学特別研究3 機能医薬創成学特別研究4 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション						
専	助教	豊玉 彰子 (40)	平成25年4月	医薬支援ナノ工学特別研究1 医薬支援ナノ工学特別研究2 医薬支援ナノ工学特別研究3 医薬支援ナノ工学特別研究4 薬工連携特別演習 テクノロジーインターンシップ グローバルプレゼンテーション		講師				平成24年11月 昇任

(2) 専任教員数

	設置時の計画					変更状況					年齢構成	
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
〇〇大学	()	()	()	()	()	[]	[]	[]	[]	[]	歳	名
△△大学	()	()	()	()	()	[]	[]	[]	[]	[]	歳	名

	設置時の計画			変更状況			年齢構成	
	研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
名古屋工業大学	8人 (8人)	0人 (0人)	8人 (8人)	8人 [±0]	0人 [±0]	8人 [±0]	63 歳	0 名
名古屋市立大学	5人 (5人)	3人 (3人)	8人 (8人)	5人 [±0]	3人 [±0]	8人 [±0]	65 歳	0 名

- (注) ・ 様式は、学部・学科の場合は上段、研究科の場合は下段を使用してください。
- ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成25年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部等における教員の定年年齢及び平成25年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

	番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
名古屋工業大学	1	該当なし		
	2			
	3			
名古屋市立大学	1	該当なし		
	2			
	3			

- (注) ・ 専任教員辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

名古屋工業大学： 該当なし
名古屋市立大学： 該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
 ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

7 その他全般的事項

<名古屋工業大学工学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

<名古屋市立大学薬学研究科共同ナノメディシン科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

(名古屋工業大学)

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	本年4月1日に開設したばかりであり、現時点では変更事項はない。設置計画書の内容に従って教育が進行する見通しである。

(名古屋市立大学)

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	本年4月1日に開設したばかりであり、現時点では変更事項はない。設置届出書の内容に従って教育が進行する見通しである。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 - ・ 構成大学毎に記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

(名古屋工業大学)

- ① 実施体制
- a 委員会の設置状況
- ・ 全学的な教育全般に関する組織の工学教育総合センターに創造教育開発オフィスを設置【関係規則：別添資料】
- b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)
- ・ 創造教育開発オフィスの下に、FD推進部会、授業評価・シラバス部会、カリキュラム検討部会、e-Education推進部会、生涯学習部会を設け、それぞれ年4回程度開催
- c 委員会の審議事項等
- ・ 工学教育カリキュラム(共通教育を含む)の開発
 - ・ 社会人教育及び留学生教育のためのカリキュラムの開発
 - ・ 生涯学習、高大連携及び公開講座の企画及び立案
 - ・ ファカルティ・ディベロップメントの推進
 - ・ 授業評価及びシラバスに関する調査及び研究
 - ・ 教員・学生の双方向型教育支援システムを実現するe-Educationの推進
- ② 実施状況
- a 実施内容
- ・ 学外から講師を招へいしFD講演会を開催
 - ・ 授業評価アンケート、教員による授業の自己点検・評価の実施
- b 実施方法
- ・ 学外から講師を招き、FD講演会を開催し、講演またはワークショップ形式で実施
 - ・ 学生による授業評価及び教員による自己点検・評価をWeb入力により実施し、分析結果等をWebで公表

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・ 年2回FD講演会を開催
 - ・ 半期に1回授業評価アンケートを実施
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・ 実施結果を通して得た知見，分析結果等を授業改善に活用
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期
 - ・ 半期に1回実施
 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・ 学内Webで分析結果を公開し，教員も学生も自由に閲覧可能

（名古屋市立大学）

- ① 実施体制
 - a 委員会の設置状況

教員の資質の維持向上のための全学的な組織である名古屋市立大学教育支援センターの運営委員会に薬学研究科から選出された委員が出席し、全学の活動と連携しながら薬学研究科のFD活動を行っている。
 - b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成25年5月8日（水） 第1回名古屋市立大学教育支援センター運営委員会、薬学研究科委員1名出席
 - c 委員会の審議事項等
 1. 教育支援センターNEWSについて
 2. 人文社会学部における研究授業について
 3. 授業についてのアンケートの実施方法について
 4. 新入生合同ガイダンス、新任教員研修会の実施状況について
 5. 平成25年度年度計画及び平成24年度業務実績報告について
- ② 実施状況
 - a 実施内容
 - ・ 新任教員のための研修会
 - ・ 研究不正防止のための研修会
 - ・ 海外大学の講義見学報告
 - b 実施方法
 - ・ 名古屋市立大学 新任教員のための研修会（平成25年4月11日）
名古屋市大全学部の新任教員を対象とした研修会
 - ・ 薬学研究科 新任教員のための説明会（平成25年4月26日）
薬学研究科赴任の新任教員に対して、教育・教務に関する説明を行った。
 - ・ 研究不正防止のための研修会（全講座で随時開催）
薬学研究科教員全員に対して、研究不正防止のための研修を、eラーニングシステムおよび研修資料を用いて行った。
 - ・ 海外大学の講義見学報告
交流協定を締結している南カリフォルニア大学薬学部に教授を派遣し、講義を見学し、その報告を教授会で行うとともに、報告資料を全講座に配布した。
 - c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・ 名古屋市立大学 新任教員のための研修会（平成25年4月11日）
薬学研究科新任教員4名参加
 - ・ 薬学研究科 新任教員のための説明会（平成25年4月26日）
薬学研究科赴任の新任教員7名参加。教育・教務に関する説明および質疑応答を行った。
 - ・ 研究不正防止のための研修会（全講座で平成25年7月12日までに随時開催を義務化）
全教員の参加を義務付け、報告させている。
 - ・ 海外大学の講義見学報告（平成25年2月27日）
教授会（教授および准教授）において報告。また、全講座に報告資料を配布した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

25年4月に開設されたばかりであるので、現状把握と分析を行いつつ、大学院教務委員会を中心に、名古屋工業大学とも連携しながら、カリキュラムや授業の時間割等について引き続き検討を行う。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

ほとんどの講義において、講義後最終回に授業に対する感想や意見を書かせている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

公開は行っていない。

- (注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付してください。
・ 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載してください。(記入例参照)
・ 構成大学毎に記入してください。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

(名古屋工業大学)

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成25年度に開設し、教育・研究活動を開始したところである。自己点検・評価については、名古屋工業大学の「全学評価室」及び名古屋市立大学の「自己評価・第三者評価等検討委員会」が連携し、共同ナノメディシン科学専攻協議会の下で定期的に行うこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成26年6月末に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定(平成26年6月末予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関(大学評価・学位授与機構)の評価を受けるべく学内で検討中。

(名古屋市立大学)

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成25年4月に開設されたばかりであるので、現状把握と分析を行いつつ、大学院教務委員会を中心に、評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

平成23年度の教育研究活動に関する自己評価報告書を取りまとめ、研究科ホームページで公表している。平成24年度についても、25年度に公表する予定である。25年度開設の本専攻についても、同様に26年度に自己評価報告書を取りまとめ、研究科ホームページで公表の予定である。

a 公表(予定)時期

- ・平成26年8月頃公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定(平成26年8月頃を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成28年度に評価機関(大学基準協会)の評価を受ける予定である。

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
・ 構成大学毎に記入してください。

(4) 情報公表に関する事項
(名古屋工業大学)

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表予定時期 (平成 25 年 6 月 30 日)

(名古屋市立大学)

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表予定時期 (平成 25 年 6 月 30 日)

名古屋工業大学工学教育総合センター規則

平成 17 年 2 月 16 日 制定

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、名古屋工業大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 6 条の 2 第 2 項の規定に基づき、名古屋工業大学工学教育総合センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(センターの任務)

第 2 条 センターは、名古屋工業大学（以下「本学」という。）の入学から学修、卒業及び就職に至るまでを総合的にとらえた連続性を持った取組みを継続的に推進することにより、本学の工学教育の質の向上を図ることを任務とする。

(センター長)

第 3 条 工学教育総合センターに、センター長を置く。

2 センター長は、本学の教員の中から学長が指名する者をもって充てる。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に欠けた場合の後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 3 条の 2 センターに、必要に応じて副センター長を置くことができるものとする。

2 副センター長は、本学の教員の中から学長がセンター長と協議の上指名する者をもって充てる。

3 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 副センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長が任期満了前に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長は、センター長が任期の途中で欠けた場合は引き続き在任し、次期センター長が任命される日に辞任するものとする。

(オフィスの設置)

第 4 条 センターに、次のオフィスを置く。

一 アドミッションオフィス

二 創造教育開発オフィス

三 キャリアサポートオフィス

(オフィス長)

第 5 条 前条に規定するオフィスを、オフィス長を置く。

2 オフィス長は、当該オフィスの教員の中から学長が指名する者をもって充てる。

3 オフィス長は、当該オフィスの業務を総括する。

4 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、オフィス長が任期満了前に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副オフィス長)

第5条の2 第4条に規定するオフィスに、必要に応じて副オフィス長を置くことができる。

2 副オフィス長は、当該オフィスの教員の中から学長がオフィス長と協議の上指名する者をもって充てる。

3 副オフィス長は、オフィス長の業務を補佐し、オフィス長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副オフィス長が任期満了前に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長は、オフィス長が任期の途中で欠けた場合は引き続き在任し、次期オフィス長が任命される日に辞任するものとする。

(オフィス委員会)

第6条 オフィスの運営に関する事項を審議するため、各オフィスにオフィス委員会を置くことができる。

2 オフィス委員会は、オフィスの構成員、入試委員会又は教務学生委員会の委員長から指名された委員及びオフィス長が指名する学務課職員又は学生生活課職員で構成する。

第2章 アドミッションオフィス

(目的)

第7条 アドミッションオフィスは、アドミッションポリシーに応じた入学者選抜を実現するため、入学者選抜方法の在り方に関する調査分析、入試情報の提供及びアドミッションオフィス入試（以下「AO入試」という。）を実施し、本学の教育の質的向上に資することを目的とする。

(構成員)

第8条 アドミッションオフィスは、別表1に掲げる職員をもって構成する。

2 学長は、AO入試を推進するため、本学の教員の中からセンター長の推薦に基づき委嘱する者に、アドミッションオフィスの業務を兼務させることができる。

(部門の設置)

第9条 アドミッションオフィスに、第7条の目的を達成するため、調査分析部門、企画広報部門及び入試実施部門を置き、別表2に掲げる業務を行う。

第3章 創造教育開発オフィス

(目的)

第10条 創造教育開発オフィスは、本学の教育活動及び研究活動との連携の下に、工学教育全般に関する調査、研究及び開発を行い、本学の工学教育の質的向上に資することを目的とする。

(構成員)

第11条 創造教育開発オフィスは、別表1に掲げる職員をもって構成する。

2 学長は、工学教育を推進するため、本学の教員の中からセンター長の推薦に基づき委嘱する者に、創造教育開発オフィスの業務を兼務させることができる。

(部門の設置)

第12条 創造教育開発オフィスに、第10条の目的を達成するため、工学教育創造部門、教育機能開発部門及びe-Education推進部門を置き、別表2に掲げる業務を行う。

第4章 キャリアサポートオフィス

(目的)

第13条 キャリアサポートオフィスは、本学のキャリア教育の推進、開発を行うと同時に就職をより円滑に推進するための支援及び就職情報の提供等を全学的な立場で行うことを目的とする。

(構成員)

第14条 キャリアサポートオフィスは、別表1に掲げる職員をもって構成する。

2 学長は、学生のキャリアサポートを推進するため、本学の教員の中からセンター長の推薦に基づき委嘱する者に、キャリアサポートオフィスの業務を兼務させることができる。

(部門の設置)

第15条 キャリアサポートオフィスに、第13条の目的を達成するため、キャリア意識開発部門及びキャリア支援部門を置き、別表2に掲げる業務を行う。

第5章 補則

(事務)

第16条 アドミッションオフィス及び創造教育開発オフィスに関する事務は、学務課において処理する。

2 キャリアサポートオフィスに関する事務は、学生生活課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 名古屋工業大学アドミッションセンター規則(平成16年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年7月25日から施行し、改正後の第5条の2第4項の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成 21 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 7 月 26 日規則第 7 号）

この規則は、平成 24 年 8 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 3 月 15 日規則第 20 号）

この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1

構成員

オフィス名	構成員
アドミッションオフィス	教授 准教授 その他職員
創造教育開発オフィス	教授 准教授 その他職員
キャリアサポートオフィス	教授 准教授 その他職員

別表 2

部門の業務

オフィス名	部門名	業務
アドミッション オフィス	調査分析部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者選抜の在り方に関する調査及び分析 ・ 入学者の追跡調査 ・ 入試データの蓄積，調査及び分析 ・ 高大連携に関する調査及び分析
	企画広報部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試に関する情報提供 ・ 入試に関する広報の調査 ・ 大学説明会，オープンキャンパス等の企画及び立案 ・ 高大連携（出張授業等をいう。）の取組み
	入試実施部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ AO入試に関する選抜基準等の策定 ・ AO入試の選抜資料の作成及び評価 ・ AO入試の実施及び評価
創造教育開発オ フィス	工学教育創造部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工学教育カリキュラム（共通教育を含む。）の開発 ・ 社会人教育及び留学生教育のためのカリキュラムの開発 ・ 生涯学習，高大連携（スーパーサイエンスハイスクール等をいう。）及び公開講座の企画及び立案
	教育機能開発部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファカルティ・ディベロップメントの推進 ・ 授業評価及びシラバスに関する調査及び研究
	e-Education 推進 部 門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員・学生の双方向型教育支援システムを実現するe-Educationの推進
キャリアサポー トオフィス	キャリア意識開発 部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育のための科目の開講 ・ 進路選択，キャリア意識の高揚に資するためのキャリアデザインプログラムの作成 ・ キャリア形成講座の開設
	キャリア支援部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職指導及び就職情報提供 ・ 就職ガイダンス，企業セミナー等の実施 ・ インターンシップの実施 ・ 個人面談によるカウンセリング ・ 就職担当教員との連携 ・ 企業の開拓